

# 日韓呼称についての研究 — 「おじ・おば語」を中心に —

パク・カラム

## 1. はじめに

日本語と韓国語は文法や語彙などが似ているが、韓国語をそのまま日本語に翻訳して発話したとき、日本で受容されないものも多い。呼称もそうである。呼称は人と人との交流にとっても欠かせない課題であり、身につけなければならない言語知識である。時代の変化に伴い、家族、親族などの小規模の集団から、学校や職場、ビジネスなどのより大きい規模の集団に所属して生活する人が多くなっている。従って初対面の見知らぬ人と触れ合う機会も多くなった。このような時代の変化は呼称にも変化を与え、今は家族社会で使われていた呼称が、大規模の社会でも使われる現象をよく見る。過去に親戚の間に使われていた呼称である「아저씨アジョッシ」や「아주머니アジュモニ」が急激な社会構造の変化に伴い、通称となり、特に「아주머니アジュモニ」は「아줌마アジュンマ」の形で使われ、卑称に転落するようになった。

本稿では親族呼称である「おじさん」「おばさん」のような「おじ・おば語」が大規模の社会で使われる、すなわち虚構的用法がなされる場合を韓国語の「아저씨アジョッシ」「아줌마アジュンマ」と比較研究しようとする。

## 2. 日本語と韓国語における親族呼称の虚構的用法

日常で見知らぬ人に親族呼称が使われる場面をよく見る。例えば、お兄さんではない人に「兄ちゃん」と呼んだり、中年の女性に「おばちゃん」と呼んだりするのが該当するだろう。こういうのが親族呼称の虚構的用法である。鈴木(1973)は親族呼称の虚構的用法について次のように述べた。

「実際には血縁関係のない他人に対し、親族呼称を使って呼びかけることを、人類学では親族名称の虚構的用法といっている。虚構的用法の一般原則は、話し手が自分自身を原点として、相手がもし親族だったら自分の何に相当するかを考え、その関係にふさわしい親族名称を対称詞または自称詞に選ぶのである。たとえば、若い人は他人である老人に対し、「おじいさん」「おばあさん」と呼びかけたり、中年の男を「おじさん」と言ったりする。また自分より年下の者に対し、自分を「おじさん」と称したり、「お姉さん」と言ったりする。」

初対面の人に対する呼びかけの際、年齢の上下に関係なく日本語では「すみません」「あのう」「ちょっと」など、韓国語では「잠깐만요チャンカンマンヨ（ちょっと）」「저기요ジョギョ（あのう）」などといった「喚起語句」が最も多用されている。しかし、韓国人の場合は日本人に比べ、親族名称を用いるケースも多く、とりわけ年上の女性に対してはかなり多用されている。一方、日本人の場合、年上の女性にあたる 50 歳ほどの見ず知らずの女性を「おばさん」と呼ぶことは極めて低く、男女ともかなり否定的に受け止められている。

韓国語の場合、普通は社会的身分がそれほど高くない人を呼ぶ呼称になっている状況なので、「아저씨アジョッシ」や「아줌마アジュンマ」と呼ばれるとあまり愉快ではない。身分や職級が低い人は何も思わないかもしれないが、身分や職級が高い人に「아저씨アジョッシ」や「아줌마アジュンマ」という呼称を使ったら、呼ばれる側の人が非常に不愉快な反応をし、呼んだ人も失礼をしたように思われる。

以下は北島佳代子(2012)、土井美穂(2004)、이선희イ・ソンファ(2002)などを参考にして「おじさん」と「아저씨アジョッシ」、「おばさん」と「아줌마アジュンマ」の比較を試みたものである。

## 2-1 「おじさん」と「아저씨」の比較

日本語の「おじ」とは以下の関係にある男性を指す語。

「伯父」：傍系 3 親等にあたる父親や母親（養父母や再婚相手を含む）の兄、ないし姉の夫（伯母婿）にあたる男性、祖父母の養子や再婚相手の息子、父母の養親の実の息子で、父母より年長の者を指す語。

「叔父」：傍系 3 親等にあたる父親や母親（養父母や再婚相手を含む）の弟、ないし妹の夫（叔母婿）にあたる男性、祖父母の養子や再婚相手の息子、父母の養親の実の息子で、父母より年少の者を指す語。稀に本人より年少の場合もある。

「小父」：年下の人間が親族以外の壮年期以降の成人男性を指して呼ぶ一般語。父母の兄弟以外の親族（いとこおじや父母と年齢の近い従兄や異母兄、兄弟姉妹の舅など）を指して呼ぶ場合にも使う。

この語の尊敬語は「～様」ないし「～さん」であり、日本語の口語表現全般で使われる。また謙譲語は単に「伯父」「叔父」であり、自らの親族である「伯父」「叔父」をより遠い関係の者に呼ぶときにはこれらの謙譲語を使う。

しばしば幼児もしくは年少の人間に対し、「おとうさん」などと同様、相手を中心とした呼び方で一人称として用いられることがある。この場合は普通「～さん」を付け「お

じさん」となる。ほかの呼び方として「おじちゃん」、関西地方では「おっちゃん」「おっさん」などの場合もある。また、年長の男性に対する呼びかけとして「おっちゃん」などが用いられることもある。ただし、伯父・叔父にあたる男性であっても、若い男性の場合や年齢が近い場合には「おじさん」の語が持つ年長の語感によって不快に感じるものが少なくないため、若い男性を指す一般語の「おにいさん」を用いたり、名前を呼ぶことにしている場合がある。また、伯父・叔父が未成年である場合は、通常「おじさん」あるいは「おじちゃん」と呼びかけたり、自称することはまずない。

韓国語の「아저씨アジョッシ」はもともと自分より一つの世数の上の男性の親戚を指す言葉だったが、今は中年層の男性を一般に指す言葉になっている。

普通は社会的身分がそれほど高くない人を呼ぶ呼称になっている状況なので、「아저씨」と呼ばれるとあまり愉快ではない。身分や職級が低い人は何も思わないかもしれないが、身分や職級が高い人に「아저씨アジョッシ」という呼称を使ったら、呼ばれる側の人が非常に不愉快な反応をし、呼んだ人も失礼をしたように思われる。だが確かに多用されている状況である。

軍人の場合小学生の時から「군인아저씨クニンアジョッシ(軍人おじさん)」に手紙を書くという言い方が定着し、高校生はもちろん、老年層も「군인아저씨クニンアジョッシ」と呼ぶ場合が時々ある。若い男性を「아저씨アジョッシ」と呼んではいけない雰囲気はあるが、若い女性に対しての「아줌마アジュンマ」よりはある程度許容される。呼ばれる人も精神的な衝撃が少なく、呼ぶ人も呼ばれる人の気持ちをあまり気にせず、このように呼ぶ。女性には「아가씨アガッシ(お嬢さん)」という呼称が大衆化したせいもある。主に子どもと中年以上が青年期の男性に「아저씨アジョッシ」とよく呼ぶが、青年層は自分たちが「아저씨アジョッシ」と呼ばれた時、気分が悪くなることを知っているから青年層を「아저씨アジョッシ」とは呼ばない。「오빠 OPPA(お兄さん)」という表現もあるが、一般的な飲食店や店では使わない。飲食店などで若い男性従業員が通り過ぎると、「아저씨アジョッシ(おじさん)」と呼ばずに「저기요ジョギョ(すみません)」「학생ハッセン(学生さん)」のような表現を使うのが望ましい。若い男性は「아저씨アジョッシ」とは呼ばれたがらないが、実際は呼ばれる場合が少なくない。

## 2-2 「おばさん」と「아줌마」の比較

日本語の「おば」は以下の関係に当たる女性に対する敬称である。

「伯母」は傍系 3 親等にあたる父親や母親（養父母や再婚相手を含む）の姉ないし兄の妻にあたる女性、祖父母の養女や再婚相手の娘、父母の養親の実の娘で、父母より年長の者を指す語。

「叔母」は傍系 3 親等にあたる父親や母親（養父母や再婚相手を含む）の妹ないし弟

の妻にあたる女性、祖父母の養女や再婚相手の娘、父母の養親の実の娘で、父母より年少の者を指す語。稀に本人より年少の場合もある。

「小母」は年下の人間が親族以外の成人女性、特に子を持つ親ほどの年齢層を指して呼ぶ一般語。父母の姉妹以外の親族（いとおばや父母と年齢の近い従姉や異母姉、兄弟姉妹の姑など）を指して呼ぶ場合にも使う。

この語の尊敬語は「～様」ないし「～さん」である。また謙譲語は単に「伯母」「叔母」であり、自らの親族である「伯母」「叔母」をより遠い関係の者に呼ぶときにはこれらの謙譲語を使う。幼児もしくは年少の人間に対し、「おかあさん」などと同様、相手を中心とした呼び方で一人称として用いられることがある。この場合は普通「～さん」を付け「おばさん」か「おばちゃん」となる。あるいは年長の女性に対する呼びかけとして「おばちゃん」等を用いる場合もある。ただし、伯母・叔母にあたる女性であつても若い女性の場合や年齢が近い場合には、「おばさん」の語が持つ年長の語感によって不快に感じる事が少なくないため、若い女性を指す一般語の「おねえさん」を用いたり、名前を呼ぶことにしている場合がある。また、伯母・叔母が未成年である場合は、通常「おばさん」あるいは「おばちゃん」と呼びかけたり、自称することはまずない。

韓国語の「아줌마アジュンマ」と「아주머니アジュモニ」は中年の女性を指す呼称である。本来は親戚の女性を親しみを込めて呼ぶ呼称だったが、朝鮮時代に入ってから兄の妻にも「아주머니アジュモニ」という呼称を使った。1910 年以降、一般の既婚女性にも「아줌마アジュンマ」「아주머니アジュモニ」と呼ぶようになり、今では主に結婚した女性に対して使う言葉になっている。近代韓国社会ではいい意味と悪い意味が入り混じった「根気強くて子供のために献身する女性」として認識されたりもした。

### 3. 調査の目的と方法

이선희イ・ソンファ (2002) の研究方法を参考し、日本人はどんな場合に「おじ・おば語」の虚構的用法を用いるかを探るために日本人の大学生にインタビュー調査を行う。

이선희イ・ソンファ (2002) は五つのシチュエーションを設定し、20～40 代の被験者がそのシチュエーションに置かれたとき、その場にいる 20～60 代の知らない相手に対しどう呼ぶかについてアンケート調査を行った。その五つのシチュエーションとは、①道を尋ねる場合、②格式ある店で買い物する場合、③普通の店で買い物する場合、④格式あるレストランで注文する場合、⑤普通の飲食店で注文する場合である。

この研究では、20 代の日本人大学生を対象とし、インタビュー形式で調査を行った。より多くの回答のパターンを探し出すために、インタビューを行う際、回答者たちに二人一組になってもらい、対話形式で回答してもらった。シチュエーションは以下のよう

である。

- ①道を尋ねる場合
- ②格式ある店で買い物する場合
- ③普通の店で買い物する場合
- ④格式あるレストランで注文する場合
- ⑤普通の飲食店で注文する場合

上記の五つのシチュエーションで 20～60 代の初対面の相手に話しかける場合、どんな呼びかけ語を使うか、上記の五つのシチュエーションで「おじ・おば語」を使うことがあるかを調べた。またその理由は何か、他にどんな場合に「おじ・おば語」を使うか、その理由は何かを尋ねた。それぞれのシチュエーションで対話と質問への回答は 16 個ずつ得た。

## 4. 調査結果と分析

### 4-1 韓国語の場合

이선화イ・ソンファ(2002)が韓国人に行った調査の結果で既に以下のことがわかっている。

知らない人に道を尋ねる場合、40～50 代の男性、40～60 代の女性に対して「おじ・おば語」がよく使われる。特に 40 代と 50 代の男性と女性に対して高い頻度で使われる。

格式ある店で買い物する場合、30～40 代の男性、40 代の女性に対して「おじ・おば語」が使われるが、普通の店の場合より頻度が低い。「저기요ジョギョ」「여기요ヨギョ」のような喚起語句が使われるか、省略される場合も結構見られる。

普通の店で買い物する場合、20～60 代の男性、30～60 代の女性に高い頻度で「おじ・おば語」が使われる。

格式あるレストランで注文する場合、「おじ・おば語」が使われる場合もあるが、「여기요ヨギョ」が一番よく使われる。また、店員が 20～30 代の女性だった場合「아가씨アカッシ」が使われる場合もある。

普通の飲食店で注文する場合、30～60 代の男性と女性両方に「おじ・おば語」がよく使われる。20 代の男性に使われる場合もあるが、「여기요ヨギョ」の方がもっと使われる。

### 4-2 日本語の場合

インタビューの参加者は日本人 16 人(男性 7 人、女性 9 人)、回答者の出身地は岩手県 1 人、東京都 3 人、長野県 1 人、神奈川県 1 人、愛知県 1 人、三重県 1 人、広島県 3

人、島根県 1 人、香川県 1 人、山口県 1 人、福岡県 1 人、大分県 1 人であった。インタビューの回答の傾向から、次のようなことがわかった。

이선화・ソンファ(2002)が設定した五つのシチュエーションで、最初は参加者の全員が「すみません」を使った。「おじ・おば語」が使われる場合は滅多にない。普通の店で買い物する場合、店員が 50 代以上で、自分と親しい関係である場合、店員が男性の場合には「おっちゃん」、女性の場合には「おばちゃん」と呼ぶことがあると回答した参加者が 10 人いたが、初対面の相手に使うことはない全員が答えた。「おじ・おば語」を使わない理由はほとんど同じ答えで、15 人が「失礼だから」と答えた。

他に「おじ・おば語」を使う場合は「ほかの人に 40 代以上の人のことを話すとき」の答えが一番多く、回答者は 12 人だった。その理由は「その方がわかりやすいから」がほとんどだった。他にも「怒ったときに使う人もいる」と回答した回答者も 1 人いたけれど、一般的には本人がいないところでの使い方であると答えた。本人に直接使うと柄が悪いイメージを持ってしまいうらしい。

## 5. まとめ

韓国人は知らない人に向かってよく「おじ・おば語」を使うが、20 代の日本人はほとんど使わない。使わない理由は「失礼だから」だが、本人がいない場合には結構使うことがある。特にほかの人に 40 代以上の人のことを話すときによく使われるが、それは「その方」「その女性」と話すより、「おじ・おば語」を使った方がわかりやすいからである。だが、韓国人と日本人が思っている「아저씨アジョッシ/おじさん」「아줌마アジュンマ/おばさん」に当てはまる人は 40 代以上の成人で同じだった。にもかかわらず日本人は人に向かって「おじ・おば語」をあまり使わない理由は、韓国人は相手が知らない人であっても、その人との関係性を定めた傾向が強いいため、呼称を決めて呼ぶことが多いが、日本人はなるべく失礼を犯すことを避けようとする傾向が強いいため、間接的に呼ぶことが多いのであろう。

## 参考文献

- 이선화 (イ・ソンファ) (2002) 公的場面での韓国語の呼称についての研究 学位論文 (修士) 延世大学校 教育大学院 : 外国語としての韓国語教育専攻, 2002-06  
林炫情 (2003) 非親族への呼称使用に関する日韓対照研究 社会言語 科学 第 5 卷

第 2 号 2003 年 3 月 20-32p

진경애 (ジン・ギョンエ) (2016) 韓国と日本の呼称及び指称についての研究-韓日原作小説と翻訳版の対照と通じて 学位論文(博士) 明知大学校大学院 日文日語学科,

2016. 8

鈴木孝夫(1973) 『言葉と文化』, 岩波書店

セペフリバディ・アザム(2012) 現代日本語における家族に呼びかける際の呼称表現: 世代差と性差を中心に, 一橋日本語教育研究(1): 61-72p, 2012

土井美穂(2004) 韓国語と日本語の呼称の使用についての対照研究 学位論文(修士) 高麗大学校 大学院 国語国文学科 2004

韓 秀蘭(2005) 日韓両言語の人物呼称の対照研究--韓国ドラマのシナリオ分析を中心に, 名古屋大学人文科学研究 27-37p, 2005-02

北島佳代子(2012) 韓・日両語の呼称についての研究 -「呼称の拡大使用」を中心に- 学位論文(修士)-- 高麗大学校 大学院 : 中日語文学科, 2012.